

平成20年12月26日

周南市長 島津 幸男 様

新南陽地区地域審議会
会長 吉谷 川 亮



周南市まちづくり総合計画後期基本計画の策定について（提言）

先に依頼のありました標記計画の記載内容について、当地域審議会では、同時に報告のありました新市建設計画（ハード事業）の進捗状況も踏まえ、大所高所から、また身近な地域の視点から検討を重ねてまいりました。

その中で特に、今後、早期かつ重点的に推進すべき事業等については、専門部会を設け検討してまいりましたので、その結果について、下記のとおり報告、回答いたします。

記

1. 新市建設計画事業について

計画策定時と今日とでは、さまざまな環境の変化があり、とりわけ財政状況は厳しさを増していることから、計画に掲げたそれぞれの事業内容及び優先度については、見直しを検討する必要があると考えます。

しかしながら、合併時における計画は、その策定経緯から基本的に尊重すべきものであり、また、現計画事業はいずれも地域において必要な事業であることから、新市建設計画の未着手、未完了事業にあつては、後期基本計画に盛り込み、重点的、積極的に事業推進を図られるようお願いいたします。

2. 後期基本計画における重点的推進施策について

合併後5年が経過し、この間、特に周辺部においては、過疎化や高齢化の進行等、地域を取り巻く環境はいっそう厳しさを増し、このため、福祉や医療の充実等を含めた生活の安心安全、利便性の向上へのニーズは、新市建設計画や前期基本計画の策定時よりもさらに大きいものがあります。

こうしたことから、新南陽地域審議会においては、新市建設計画事業も含め、次の5点を、後期基本計画に掲げ、早期に、かつ重点的に推進すべき重要施策課題といたしました。

地域の実情をご賢察のうえ、よろしくお取り扱いのほど、重ねてお願いいたします。

■学び・交流プラザ整備事業の推進について

学び・交流プラザ整備事業は、市が新市建設計画にリーディング・プロジェクト事業として掲げ、周南市の生涯学習の拠点としての施設等を新南陽地区に整備することとされています。

建設が予定されている場所は、現在、公民館、図書館、社会文化ホール、体育館、武道館、勤労青少年ホームが配備され、市民の総合的な生涯学習の場として利用されています。しかしながら建物の多くは、昭和40年代に建設されていることから、バリアフリー社会に対応しておらず、また老朽化により雨漏りや外壁の劣化が進むなど、設備・機能の拡充整備が急務となっています。

さらには各館が分散管理されていることから、一体的な活用が難しいこと、また、駐車スペースも少なく、来訪者の路上駐車が問題となっていることなど、利用者にとって不便な状況にあります。

生涯学習に対する市民の関心が高まる中、生涯教育を核として、住みよい街づくりを進めていくことは、市民の願いでもあり、学び・交流プラザはその中核となる施設として期待されています。

このため、周南市の均衡ある総合施設の適正配置のうえから、また、利用率向上に資するための利便性を確保した施設の統合を行い、新市建設計画に沿った学び・交流プラザの整備が急務です。

市民が生涯現役として利用できる交流機能、学習支援機能を備えた効率の良い拠点施設を整備するため、市民協働による早期の整備計画策定を求めます。

■福川駅前周辺整備計画の早期着手について

福川駅周辺は、新南陽地域の西の玄関口として位置づけられ、通学・通勤の拠点であり、また新南陽ふれあいセンターとも隣接し、開発が進む福川南地区とも結節しているため、利用頻度は顕著です。

しかしながら、駅前周辺の整備は立ち遅れており、好ましい環境にないのが実情です。

特に駅の無人化以降、利用者の安心安全上の問題を抱えるなか、放火事件や暴力事件も発生し、風紀が一段と悪化している状況です。近くにある旧福川交番は、今では福川警察官連絡所（月 17 日間の昼間、不定期に交番相談員が在所）となり、福川駅の利用者から、治安上の不安が広がっています。

このため、駅舎の中または福川駅前への交番の誘致や、駅周辺に常に人がいる施設を建設することにより、治安の回復に努める必要があります。

一方、福川駅南側は、開発が進む福川南地区との交通の結節点であることから、新たに福川駅南乗降口を設置するための環境整備が不可欠です。

福川駅前周辺の整備にあたっては、明るく活気のあるものを目指して、全体計画の早期策定が必要です。

■都市計画道路中開作線及び室尾ポンプ場の整備について

福川南小学校区（夜市川以西）は、近世の埋立地で地盤が海拔0～2mと低地であるため、1時間に20ミリ以上の雨が降れば冠水する状況にあります。昭和40年代までは、のどかな田園地帯でしたが、近年の宅地開発により田園が埋め立てられ、交通量も増加してきています。

地区内道路は幅員が狭く、小・中学校生の通学路にもなっており、安全面からも問題があります。

このような近年の宅地化に対して、雨水排水が未整備であり、最近の異常気象による大雨などにより宅地の浸水等の問題も発生しています。児童や生徒は、こうした状況時においても、冠水した通学路を、ずぶ濡れで通学している状況にあります。

こうしたことから、地区内において、緊急自動車がアクセス出来る程度の生活道路網の整備と併せて、雨水幹線及びポンプ場の早期整備が必要と考えます。

■和田地区における生活交通システムの確保について

和田地区は高齢化が顕著であることから、多くの人が医療機関を利用しています。

地区内には、医療機関が一つしかなく医師も高齢になっており、非常に不安な状況におかれています。

市民病院医師の派遣を依頼しても、市民病院自体に医師が不足しているため対応が難しく、住民は今後の地域医療に大変憂慮しています。

また、自家用車で南部の市民病院等へ通院していた人も、高齢化により年々困難になってきています。一方、公共交通機関としての路線バスは便数が少ないことと、バス停までの距離が遠く高齢者の足ではバスの利用は困難であり、通院は勿論、食料品や生活必需品の買い物にも多くの住民が不便をしいられています。

このため、和田地区内の各地と市民病院や、南部の商店街を結ぶ生活交通システムを、地域住民と行政とが連携し、早期に実現する必要があります。

和田地区の生活交通システムを充実させ、地域住民が安心して健康的な暮らしができる対策を講じることが急務です。

■市西部地区も含めた保育環境の整備促進について

現在、乳幼児人口は減少していますが、女性の社会進出などの影響で、保育園の入園希望者数は増加をしています。

現在の社会情勢を把握した上で、子どもを安心して生み育てることができる環境を整備し、次代を担う子どもたちを育成することは、きわめて重要です。

合併以降、新南陽地域では、市西部地区に保育園がないため、湯野・戸田・夜市からの保育園入園希望者が増加していると聞いています。そのため、入園できない場合も生じており、早急に入園難の解消に努めるべきです。

また、地域内にあった乳児保育園を廃止したため、市の保育園では、若山保育園と福川保育園が0～2歳児を保育していますが、乳児保育の施設としては十分とはいえません。これらの園のすべての園児たちが、心健やかに育てられるような施設や環境を整えることを希望します。